

中山古墳群発堀調査報告書

昭和57年3月

石見町教育委員会

発刊にあたって

中山古墳群は昭和51年に一部発掘調査を実施し、この大規模な古墳群の性格についてある程度判明したもののその調査は花木畠地造成工事に伴なう造成部分に限られた緊急発掘調査であり、全長1Kmに及ぶ丘陵上に連なる81基をこえるこの古墳群の性格についてはまだまだ不明の点が多い。そこで今回は前回の調査結果をふまえてこの古墳群の成立した年代、性格などをより明らかにするために行なったものです。あわせてこの古墳群の存在する中山丘陵の地積や所有者なども調査し、今後の中山古墳群の保存と管理計画策定の資料として役立てようとしたものです。

調査は門脇俊彦氏を主任調査員として行なった。バケツ一杯の水を何百mもの道のない急斜面を運び上げたり、川砂を砂袋につめて背負い上げ、何日もかけてトレンチを埋めもすなど暑い最中の山頂での発掘作業は想像以上に厳しいものであったと思います。ここに調査報告書を発刊することができたことに対し、調査員の方々はもちろん、発掘作業員としていろいろとご協力いただいた地元の方々に厚くお礼申し上げます。教育委員会としてはこの調査の成果を今後の中山古墳群の管理に十分活用するつもりであります、あわせてこの報告書が広く文化財関係者の研究の一助になれば幸いに存します。

昭和57年3月

石見町教育委員会教育長 森 誠 安 治

例　　言

1. この報告書は石見町が昭和56年度国庫補助事業として実施した中山古墳群詳細分布調査の報告書である。

2. この調査は下記のような調査体制で行なった。

主任調査員　門脇俊彦（松江市立浅田小学校教諭）

調査員　尼川尚明

〃　岡本貢

〃　駅場春樹

〃　石橋典夫

〃　吉川正

調査指導　島根県教育庁文化課

事務局　石見町教育委員会教育長　森脇安治

社会教育係長　土井久夫

主事　児玉昭江

3. 本書の執筆は主任調査員、門脇俊彦が行なった。

4. 本書の編集は土井久夫が行なった。

目　　次

1. 位置と環境	3
2. 調査に至るまでの経緯	5
3. 発掘調査の概要	5
4. D23号墳の概要	6
5. 小結	9

中山古墳群発掘調査について

主任調査員 門脇俊彦

1. 位置と環境

中山古墳群は、島根県邑智郡石見町大字中野の中山丘陵に所在する。石見町は石見国の東南に位置し、石見高原の一角を占める矢上盆地をその中心としているが、中山丘陵はこの盆地の東北端に所在する独立丘陵で、南北に伸びる約 1.3 Km の長さの主脈とそれに付随するいくつかの支脈とから成っている。丘陵の標高は約 210 m、水田面との比高は 30 ~ 35 m を測る。

この丘陵上で現在確認されている古墳は約 80 基であるが、調査以前に造成工事によって大きな支脈が失われているし、主脈の南端と北端で確認されている中世の山城跡の地点での分布はいちじるしく稀薄であるので、築城に伴なう削平工事によって多数の古墳が破壊されているものと思われ、当初はさらに多くの数であったろうと推測される。後世の二次的な造成を受けていない地点での分布の在り方から類推すれば、その数は 150 基を降らないものと思われ、山間部としては正に驚異的な基数による一大古墳群であるといえよう。しかも、隣接する丘陵にも同様の古墳がさらに数 10 基確認されているので、これらをも合わせるとその数は 200 基にも及ぶのである。また、昭和 51 年にこの丘陵の一部が発掘調査され、土壙 9・石蓋土壙 1・箱形石棺 3 の無墳丘の墳墓が 7 基の溝状遺構を伴なって確認されており、このような無墳丘墓が丘陵一帯に築造されているとすれば、ここでの被葬者の数は推測することさえできない程である。

矢上盆地は、その東に隣接する出羽盆地（瑞穂町）と地勢的なまとまりをもつていて、両盆地を合わせて所謂邑智高原を形成している。それだけに、この両盆地に所在する古代遺跡の様相も、決して異なる姿をよこたえてはいない。邑智高原には、現在集落跡約 60ヶ所・古墳 20 数ヶ所（基数ではない）・弥生墳墓 2 カ所・須恵器窯跡 10 数ヶ所等の古代遺跡が確認されている。主要な集落跡を時期別にみると、縄文 8・弥生前期 4・弥生中期 7・弥生後期 9・古墳前半期 22・古墳後半期 54 となる。これらの数字の合計値は遺跡数の約 1.8 倍となるが、これは長期間継続した集落がかなりあるためである。弥生前期の集落跡は、矢上盆地の余勢野原遺跡と出羽盆地奥部の牛塚原遺跡・順庵原遺跡・淀原遺跡の 4 カ所が確認されていて、2 地点の狭い範囲に集中しているのに対し、中期から後期にかけては遺

跡数の増加とともにその分布範囲が両盆地の一円に広がっていることが注目され、この時期にいちじるしく居住範囲の拡大をみた事実を指摘することができる。この事実は、弥生時代の全期間を通して邑智高原にも水田農耕が浸透し、人口の増加と水田の拡大化を招來した帰結として理解できよう。中山丘陵の西前面に当たる仮屋遺跡からは、大正3年に扁平鉢式と突線鉢式との2口の銅鐸が一括出土しているが、この銅鐸も、弥生時代の邑智高原で開田作業を目的として成立した共同体のシンボルと解することができるし、出羽盆地奥部の順庵原段丘の先端に築造をみた弥生後期の順庵原1号基（我が国で最初に発見され調査された四隅突出型方形墓）もこのような共同体の支配者の奥都城であるといえよう。

ところが、古墳前半期の中頃（5世紀初頭頃）になると集落数はそれまでの約2.5倍に増大し、しかも各遺跡の規模がいちじるしく拡大してくる。邑智高原における集落跡のこの急激な変化は、地域社会内の自然的動向として理解することは困難でありそこになんらかの社会的変革を想定せざるを得ない。集落跡にみられるこのような不自然さは、古墳後半期に至って再度現れてくる。この時期になると、集落数はそれまでよりもさらに約2.5倍の増加を示して一挙に54カ所に急増する。しかし、この時期には遺跡規模はいちじるしく縮小して大集落の分解による集落の分散化の様相を示している。このように、邑智高原においては弥生以降の集落跡の動きの中に2度の社会的変革を見出すことができる。

一方、20数カ所を数える古墳の時期についてみると、19カ所が横穴式石室を主体としたものであり、3カ所が横穴であって、邑智高原の古墳の大部分は後期古墳である。しかもそれらはいずれも7世紀前半の築造にかかるものであり、この地方への須恵器の普及もほぼ時期を等しくしている。もっとも、中山古墳群中の1古墳から出土したと伝えられる樽形瓶1個が現存しているし、出羽盆地の良尾原遺跡からもやや古い様相をもつ蓋杯が1個出土してはいるが、影しい数にのぼるこの地方から出土した須恵器のうち2個であるのでこれをもってこの地方への須恵器の普及を7世紀前半に求めることを否定することはできない。

ところで、邑智高原への後期古墳や須恵器の普及は、集落跡の動きから汲み取れる2度目の社会変革とほぼ時を等しくしているのであり、これらの扱い手となった人々は、村落分解によって生じた新しい共同体の支配者層であったと考えられるのである。また、後章において詳述するところであるが、5世紀初頭頃に生じた社会変革と中山古墳群の成立との間にも密接な関連があるものと考えられるのであり、邑智高原における2度にわたる古墳の普及は、いずれもこの地方の社会変革に伴なった現象として把えることができる。中

山古墳群の解明に当たっては、前述したような社会的背景を基盤として思考されなければならない。

2. 調査に至るまでの経緯

中山丘陵に古墳の存在が知られるようになったのは昭和36年のことである。それは、この年の秋、丘陵の北辺斜面で牧草地造成の際に古墳が発見されたことを知った筆者が、現地調査して6基の箱形石棺墓と1基の石蓋土壙墓の存在を確認してこれに大峙山古墳群と名付け、世に紹介したことによる。その後、昭和44年には吉川正氏が丘陵南端部頂に露呈する箱形石棺墓1基を発見してこれに中山古墳と名付け、丘陵の南北両端に古墳の存在が明らかとなつたが、この時点では、これだけ多数の古墳が丘陵の全城にわたって群集しているとは予想だにされてはいなかった。

昭和51年に至り、同48年から4カ年の継続事業として進められていた団体営中山農地開発事業に伴う造成工事が中山古墳にも及ぶことを知った吉川正氏が、石見町教育委員会に通報して善惡方を依頼する一方、丘陵全体の分布調査を実施した結果、一大古墳群の存在がはじめて注目されるところとなったのである。知らせを受けた石見町教育委員会では、早速工事担当の石見町土地改良区等関係諸機関との調整を図る一方、県教委とも協議を重ねてこれが取り扱いについての方向を打ち出した。それは、丘陵を便宜上A～Dの4地区に分け、工事に關係のないD地区を除く3地区について、C地区は計画変更して古墳の全面保存を図り、A・Bの2地区は発掘調査を実施するというものであった。また、工事対象から除かれることになったC地区とD地区については、今後において将来的な保存計画を図ることとした。この結果、昭和51年8月から同年11月に至る間、A・B地区の発掘調査が実施されて古墳6・土壙9・石蓋土壙1・箱形石棺3・溝状遺構7の5種26の遺構と方形板革縫合1・鉄斧1・古式漆上器多数の遺物類とか検出された。この調査の結果は『中山古墳群発掘調査概報』にまとめられ、1977年に石見町教育委員会から刊行されている。

一方、地元石見町においてはC・D地区の保存計画策定の機運も次第に高まり、「その地区内に所在する古墳の分布状態を明らかにするとともに、1基を発掘調査してその内容を明らかにすることにより将来にわたる古墳群保存整備のための資料を得よう」ということになった。石見町では、これの具体的な方策として昭和56年度に国庫補助金を受け、C・D地区における古墳の分布とその地籍の確認作業を進める一方、主脈の北寄りに所在するD23号墳の発掘調査を実施したのである。

3. 発掘調査の概要

今回の発掘調査は前述の趣旨で実施することになったのであるから、その対象となる古墳は中山古墳群の様相ができるだけ適確に把握されるものであることが要求された。古墳群の様相を把握する上で最も重要なことは、それが形成された年代とその期間の確認である。中山古墳群の場合、昭和51年の発掘調査によってA B地区の古墳の様相が既に明らかにされ、その築造年代は4世紀後半～5世紀初頭に求められている。A B地区は丘陵の西南部に位置しているが、一方これと対象位置に当たる東北部ではかって大崎山古墳群と呼んでいたところから須恵器の櫛形瓶の出土が伝えられている。これらのことから、中山丘陵における古墳の築造は西南側が早く東北側がおそいのではないかと予想し、東北側の古墳を調査すれば古墳群形成の時期的幅が把握されるであろうと考えた。そこで、保存状況が良好で且つ規模の大きい古墳をできるだけ東北寄りから選ぶこととし、その結果D23号墳を調査対象の古墳に決定したのである。

調査は、門脇が主任調査員となり、尼川尚明・吉川正・岡本貢・石橋典夫・駿場春樹の5氏を加えて調査団を編成し、石見町教育委員会を事務局としてこれに当たった。現地調査は昭和56年7月20日から同年8月29日の間をその期間とし、7月20日～同24日に下草刈り、7月25日～同26日に墳丘測量、7月27日に墳丘およびその周辺の清掃、7月28日～8月26日に発掘調査、8月28日～9月1日に埋戻し作業をそれぞれ実施した。この間には孟蘭盆や雨天のために作業を行わなかった日もあり、事務局以外の実動日数は31日となる。なお、埋戻しには主体部内に砂を入れてその明確な保存を図った。

4. D23号墳の概要

(1). 墳丘について

D23号墳は、丘陵上の自然の盛り上がりを利用して造った不整形な前方後円墳で、主軸をほぼ南北に置き、北側に前方部を付したものである。その規模は、全長約25m、後円部径約19m、同高さ1.5～2.5m、前方部長約6m、同先端部幅約6m、同くびれ部幅約8.5m、同高さ約1mを測り、中山古墳群を構成している古墳の中では比較的大形に属する。その形状は、前方後円墳であるとはいっても前方部が極めて小さく、しかもその先端部が幅狭になっていて、所謂帆立貝形を呈している。

墳丘の築造法についてみると、先ず不整形な楕円上を呈する自然の盛り上がりの斜面を若干削って加工し、墳頂部を一応整形して墓域を掘り、予定の埋葬を終えた後に10～25cm厚さに封土を覆って完成したもので、あまり丁寧な造りだとはいえず、築造に要した実際の労働力は外見的な規模の割には少なかったであろうと推測される。なお、墳頂部には花

巣岩質の母岩が突き出しているが、墓壙掘削前の墳頂部の整形の際にも、この部分はそのままにしていたようである。また地山の加工に当たっても、斜面を若干削って墓域を区割しているだけであり、そこには不整形な地山の盛り上がりを規則的に加工して墳形を整えようとする意図はまったくみられない。これらの点から考えると、この古墳の築造者の墳形に対する観念は、さして強いものではなかったのではないかと思われるのである。

次に封土の盛り方についてみると、この古墳ではあらかじめ予定されていた埋葬が全部終了した後に封土を覆っている。先ず墓拵内に遺体を安置すると、掘り出した上でそのまま墳壙を埋める。予定の人数の埋葬が終わると、露出している母岩の表面の凹部を埋めるように黄褐色系の色を呈する粘土を覆って墳頂部を整え、最後に砂粒まじりの薄い黒色味を帯びた化粧土を墳丘の全面に覆って仕上げている。前方部は、地山をほとんど加工せずに自然地形をそのまま利用し、地山上に10~30cmの厚さに黄褐色粘土を盛って方形の台を造り、その上に後円部と同様の化粧土を覆ったものである。化粧土は、後円部と前方部とを区別することなく、全面を一気に覆っている。この古墳の封土は、基本的には整形のための盛土と化粧土の2層から成っているといえよう。

この古墳の墳丘で最も注意を引かれることは後円部の斜面が2段に加工されている事実である。下段の加工面はそのまま前方部とつながるので、これを以てて墳裾とし、それとともに前述の古墳規模を考えているのである。ところが、墳頂から約1m下がったところにも今一つ加工がみられ、この段が描く円の規模は、南北径約15m、東西径約12mを測る。この2つの段によって描かれる2つの円の中心は明らかに離れている。位置的にみて、この事実と内部主体の在り方とには深い関連があるようと思われるが、詳細については後述することとした。

(2). 内部主体について

この古墳からは、後円部頂で5基、前方部で1基の計6基の主体内部が検出された。各主体の位置は図に示すとおりである。

オ1主体 この主体部はD23号墳の中では最も整美な墓壙で、その規模は、底面長約2m、同幅0.6~0.7m、深さ33~37cmを測り、軸を西北~東南に置いている。床面は約1%勾配で西北部が高く、また墳壙幅も西北側が広いことから、遺骸はこの方向に頭を置いて安置されていたものと思われる。この墳壙は、露呈している母岩に掘り込まれたもので、保存状態は極めて良好である。墓壙内には約30×35×20cm程の大きさで拳状を呈する石が落ち込んでいたが、この石は墓標石であった可能性が強い。墓壙内に木棺が安置されてい

いた痕跡は認められず、また遺物もまったく検出されなかった。

オ2 主体 この墓壙は、オ1 主体の南側約 0.5m の位置に、それとほぼ平行して掘り込まれている。その規模は、底面長約 1.7m、同幅 0.4~0.6 m、深さ 20~29cm を測る。床面はほぼ水平に作られているが、東南端には堅い母岩の凸部を利用した枕が取り付けられており、墓壙の幅も東南側が広いことから、この方向に頭を置いて遺骸を安置したであろうと考えられる。木棺は使用されておらず、遺物もまったく検出されてはいない。かなり不整形な墓壙である。

オ3 主体 オ3 主体は、後円部のほぼ中央に墳丘の主軸と直交して営まれたもので、2段掘りの構造を備えている。外側の土壙はやや不整形で、底面長約 1.7m、同幅 0.5~0.7 m、深さ約 30cm の規模である。内側の墓 はかなり小さく、底面約 1.3m、同幅 18~25cm 上面からの深さ 40~45cm を測り、比較的整美な作りで、床面は U 字形を呈し、木棺使用の痕跡は認められない。この墓壙では、埋土の上面から古式土師器の小片が 4 片検出された

オ4 主体 この墓壙は、後円部頂の最も北寄りの位置に営まれたもので、オ3 主体とはほぼ平行し、墳丘の主軸に直交させようとする意図がうかがえる。底面長約 1.7m、同幅 0.4~0.55m、深さ 40cm の規模を備え、床面は勾配で西側が高く、また墓壙幅も西側が広いので、この方向に頭部を置いて遺骸を安置したものと思われる。遺物は検出されておらず木棺使用の痕跡も認められない。

オ5 主体 後円部頂の東南隅に営まれた墓壙で、底面長約 1.5m、同幅 0.5~0.7 m、深さ 30~35cm の規模を備え、墳丘の主軸にはほぼ平行して作られている。床面は勾配で北側が高く、墓壙幅も北側が広いので、この方向に頭部を置いたものと思われる。堅い母岩に掘り込まれているのでその作りはやや荒いが、床面は比較的整美である。木棺使用の痕跡は認められず、遺物の検出もみてはいない。

オ6 主体 前方部上面に営まれた墓壙で、底面長約 2.1m、同幅 0.8~1.0 m、深さ 25~30cm を測る。主軸を西南西~東北東に置いているが、平面位置がオ3 主体やオ4 主体とはほぼ平行に並ぶので、墳丘の主軸に直交させようとする意識があったのではないかと思われる。やや不整形であり、一部破損したところもある。墓壙幅は西南西側が広くなっているので、この方向に頭部が置かれていたであろう。遺物は検出されておらず、木棺使用の痕跡も認められない。

主体部とは別に、後円部頂の西南隅から焚火跡が検出されたことは注意されなければならない。この遺構は地中に径約 60cm 深さ約 20cm の穴を掘ったもので、内部には木炭のまじ

った黒色灰が入っていた。また、西南側に灰をかき出した痕跡も認められた。

(3). 出土遺物について

この古墳から出土した遺物は、 $\varnothing 3$ 主体の埋土上から検出した4片の古式土師器の小片のみである。この小片は、その出土状況からみて $\varnothing 3$ 主体に供獻されたものであろうと考えられる。だが、4片の小片のみが供獻されているというのはいかにも奇異な感じを受ける。しかし、邑智高原においては破碎した土器片を供獻した墳墓の調査例がいくつか知られている。弥生後期の四隅突出型方形墓である順庵原1号墓（瑞穂町）では周溝内に設けられたストンサークルの周辺に破碎した土器片が規則的に配されていたし、土壇底に箱形石棺を安置した弥生後期の御華山墳墓の埋土上にも複数個の土器を破碎した小片が少量供獻されていた。また古墳時代後期の長尾原土壤墓群（瑞穂町） $\varnothing 3$ 土壤墓でも、埋土上に供獻されていた少量の土師器片が検出された。これからの中例から、邑智高原においては弥生後期から古墳時代後期に至る間一貫して破碎した土器片を供獻する葬送儀礼が継承されていたことを知るのである。中山D23号墳 $\varnothing 3$ 主体の供獻土器片もこのような伝統的埋葬祭祀の一貫として理解することができる。

この古墳から出土した4片の土器片は、あまりにも小片であるためにその器形や特徴を把握することが困難ではあるが、薄手で、胎土に砂粒を含み、内部をヘラ削りのみで調整していること等の特質を指摘することはできる。この土器片の時期をこれだけの特徴で位置付けることはむずかしいが、薄手であることから、古式土師器でも比較的古い時期のものであろうと思われる。

5. 小結

前述したように、この古墳には前方部をも含めて6基の内部主体がある。これらの内部主体は各墓壙の主軸の方向から2類別することができる。その1つは古墳の主軸を意識したものであり、他の1つはこれとは無関係のものである。 $\varnothing 3$ 主体～ $\varnothing 6$ 主体は前者に属し、 $\varnothing 1$ 主体と $\varnothing 2$ 主体は後者に属する。一方、この古墳の後円部斜面には2段の地山加工があり、それによって描かれる2つの円の中心にはずれがみられるが、 $\varnothing 1$ 主体は内円の中心に位置し、 $\varnothing 3$ 主体は外円の中心に位置する。しかもこの2基の主体部は、その規模や他の様相からみてそれぞその中心主体にふさわしいものである。このようにみると、内円と外円とは異質な区劃をあらわしていると考えられ、この場所に2度にわたって古墳が築造されたとみることができるのである。

昭和51年に行われたA B地区の調査で、そこから検出された墓壙の多くが、その主軸を

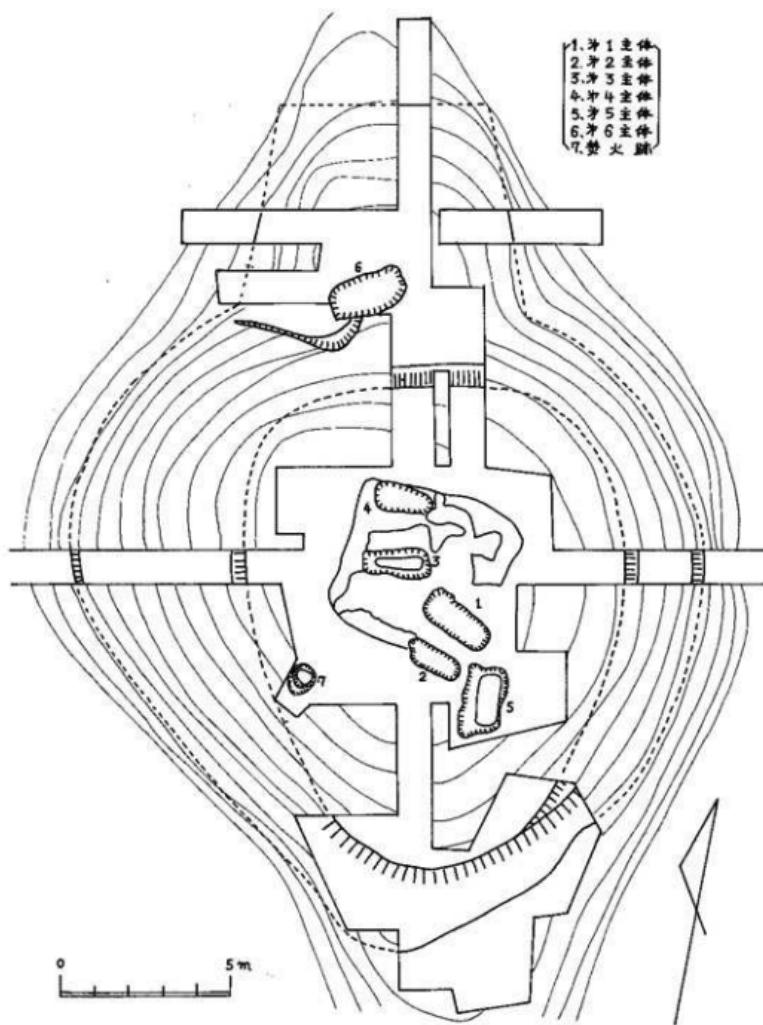
向歯無山に向いていることが指摘されている。向歯無山というのは、中山丘陵の西側に屹立する山で、AB地区の調査者はこの山を神名権山に比定し、古い時期には墓墳を神名権山に向ける風習があったとしている。ところが、5世紀前半の築造とみられるこの地区的前方後方墳の主体部は、向歯無山とは無関係の方向を向いている。調査者は、この事実から、5世紀に入って墓墳を神名権山に向ける風習は失われたと考えたのである。

D23号墳においても、先に指摘したように墳丘の主軸を意図した墳墓群とそれとは無関係な墳墓群との両者が存在するが、後者に属する第1主体と第2主体はAB地区の場合と同様にやはり向歯無山を向いている。つまり、内円区割の古墳は向歯無山を意識して築造されたものであり、外円区割の古墳はそれとは無関係に造られているということになる。遺物がほとんど出土していないこの古墳では、その性格等を考えるに当たってAB地区の様相を考慮する必要があるが、墓墳の方向を規定する要因が向歯無山から墳丘軸へと移行したとする見方を肯定するとすれば、前方後円墳の築造に先立って内円の古墳が既に築造されていたとみなければならぬ。

この古墳の築造年代については、そのきめ手となる遺物が極少であるために容易には決し難いが、遺構や土器片の諸様相からみてAB地区の古墳の時期を大きく降ることはないと思われるのであり、中山古墳群全体が4世紀後半から5世紀前半にかけての比較的短期間に形成されたものであろうと考えられる。かって大峰山から須恵器の樽形甌が出土したとする伝承を肯定したとしても、それは後出する一部の古墳の存在を意味するもので、この古墳群の大部分が須恵器出現以前に形成されたであろうことを否定するものではない。

しかば、何故にこの時期にかくも多数の古墳が築造されたのであろうか。前述したように、邑智高原においてはこの時期に集落数が増加し、しかもその規模が急速に拡大する。つまり、邑智高原における第1期の社会変革期に当たるのであり、中山古墳群の形成はこの社会的動向と関連しているのではないかとの想定に導かれるのである。しかば、その社会変革は何に起因するものであろうか。ここで考えられるのは鉄の量産体制である。この時期の鉄にかかる生産跡は未だここでは知られてはいないが、それについての傍証はいくつかあげができる。紙数の都合上、それについての記述は後の機会にゆずらざるを得ないが、中山古墳群の形成は邑智高原における鉄生産とのかかわりにおいて理解すべきだと思うのである。しかし、当時この地で生産された鉄の多くは地元には還元されずそれは6世紀後半にはじめて可能となり、このことが後に第2期の社会変革を招來した要因であったろうと考えられる。

中山D23号墳遺構配置図



D 23号墳写真と実測図

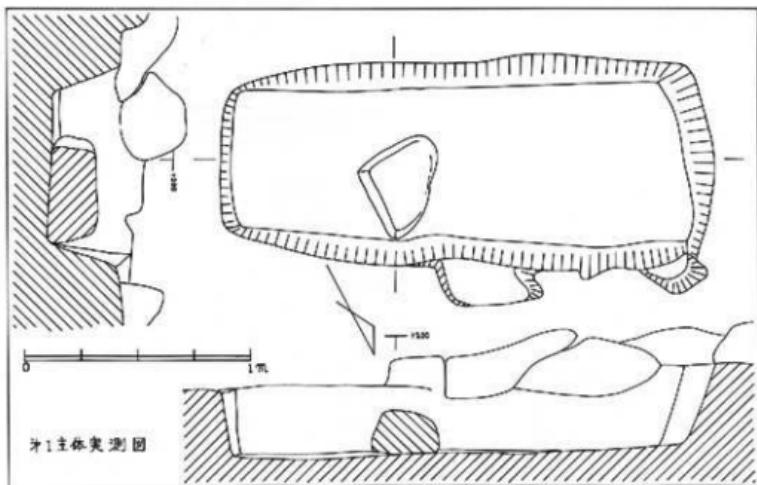


▲ 墳丘全景(調査前)

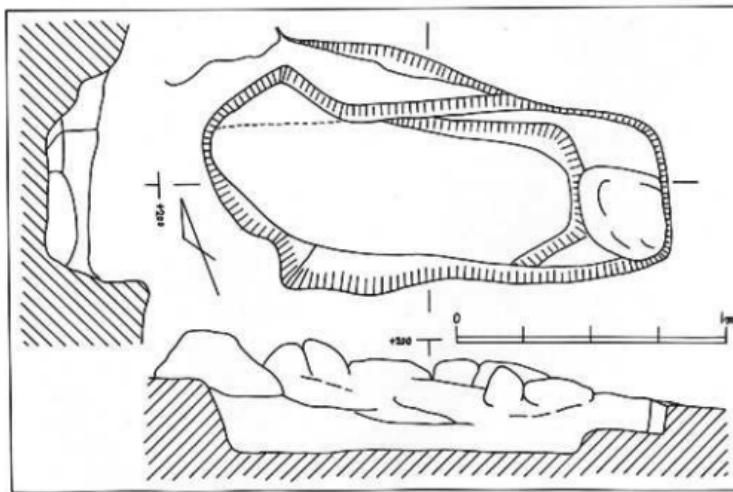
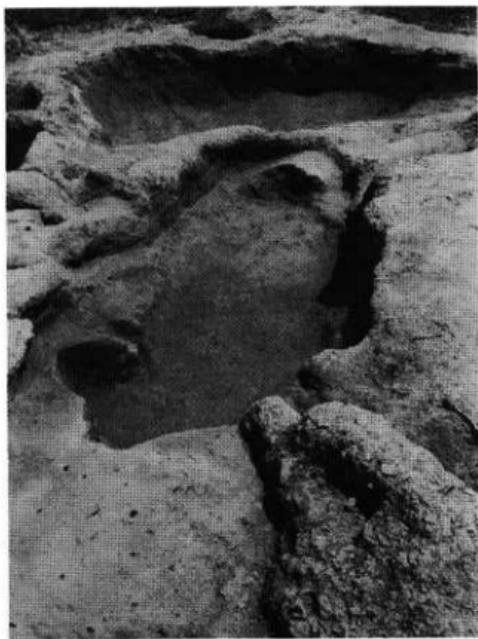
▼ 墳頂部の主体部配置



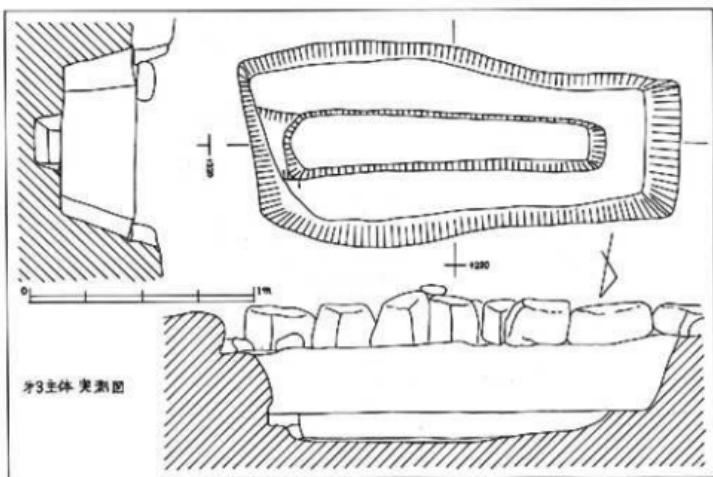
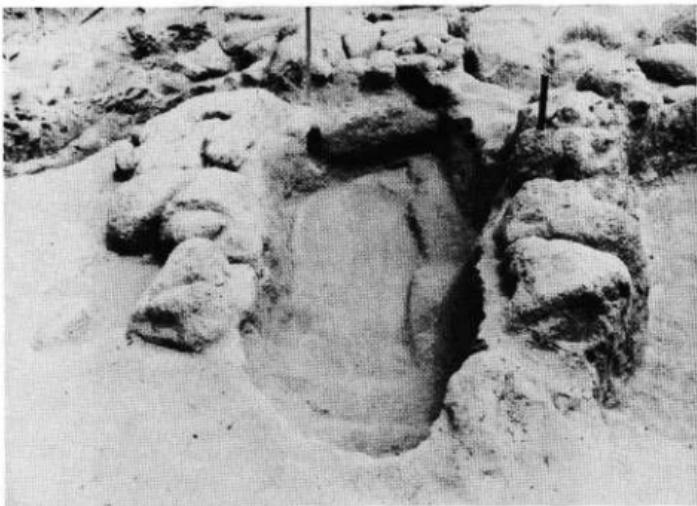
第一
主体部



第二主体部

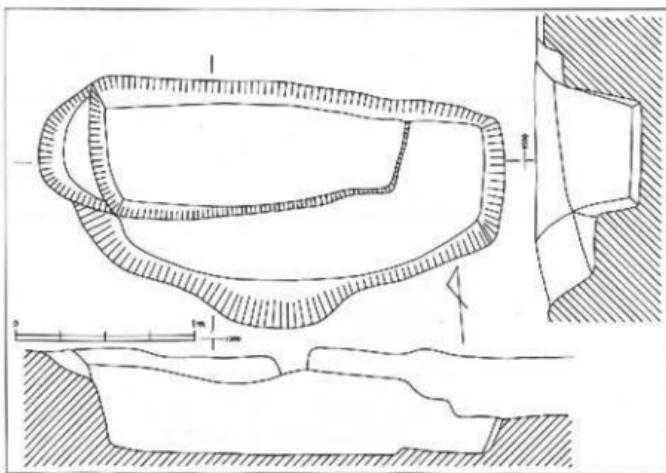


第三主体部

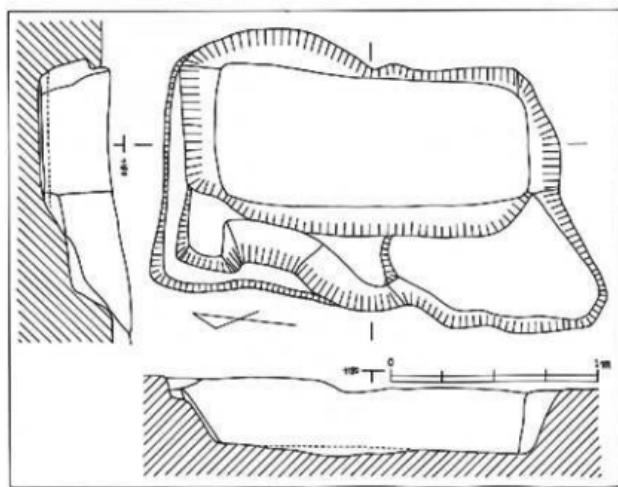
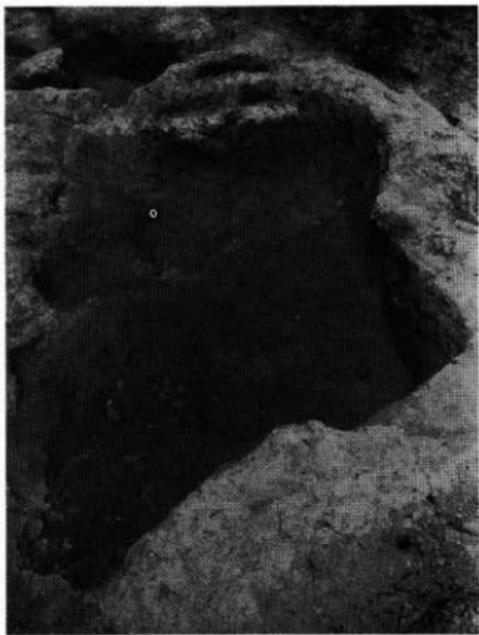


第3主体 施测图

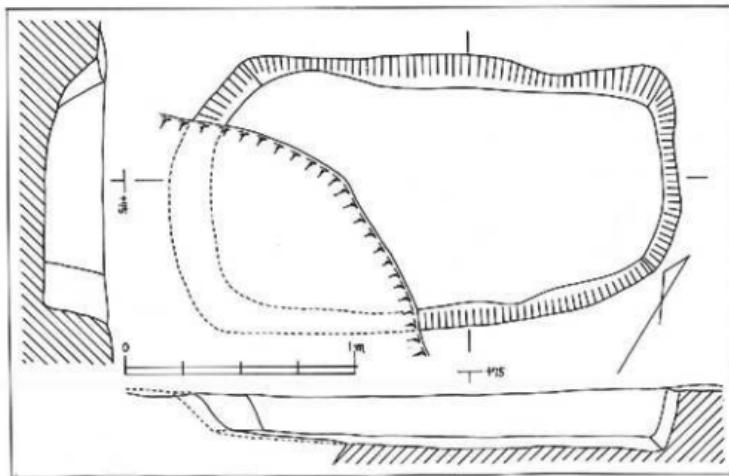
第四主体部



第五主体部



第六主体部



中山丘陵所有者一覧

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
1	3,149(の1)	4,492.00	渡辺 大三	山
2	3,151	12,534.00	福積 慎吾 外1	山
3	1,230	305.00	矢川 松雄	11 煙
4	3,150-1	106.00	矢川 松雄	51 山
5	3,150	3,987.00	渡辺 三五郎	51 山
6	3,151-1	62.00	福積 慎吾 外1	51 山
7	1,229-1	130.00	矢川 アキノリ	71原 野
8	1,220	471.13	矢川 松雄	20宅 地
9	3,148	113.00	矢川 松雄	11 煙
10	1,228-2	151.00	渡辺 三五郎	90 墓
11	1,229-1	130.00	矢川 アキノリ	71原 野
12	3146	14,434.00	矢川 タミエ	51 山
13	3,147-1	135.00	酒井 熊市 日和上郷1237	90 墓
14	3,147	5,994.00	酒井 敬皆井田	51 山
15	3,152	37,588.00	福積 慎吾 外1	51 山
16	3,146-1	130.00	矢川 松雄	51 山
17	1,218	260.00	矢川 松雄	51 山
18	3,145	13,570.00	渡辺 三五郎	51 山
19	3,143-2	2,157.00	森 広武 夫 外1	51 山
20	3,143-3	1,705.00	森 広武 夫 外1	51 山
21	3,143-1	1,817.00	今宮 清五郎 皆井田	71 山
22	3,142-3	1,034.00	宮田 博 井原皆井田	51 山
23	3,142-2	205.00	宮田 博	51 山
24	3,142-4	100.00	宮田 博	51 山
25	3,142-1	172.00	中垣 房市	90 墓
26	3,141	4,559.00	三浦 カズエ	51 山
27	1,208-2	36.00	宮田 菊人	51 山
28	1,204	452.00	渡辺 三五郎	51 山

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
29	1,207-1	414.00	渡辺 三五郎	51 山
30	1,203	103.00	渡辺 三五郎	71原 野
31	2,118	281.00	渡辺 秀麿	11 畑
32	2,131	411.00	渡辺 秀麿	11 畑
33	2,119	229.00	北野 松夫 横見2215	11 畑
34	2,119-1	60.00	北野 松夫	11 畑
35	2,120	260.00	神田 美千子	11 畑
36	2,121-1	995.00	酒井 徹	71原 野
37	2,120-1	17.00	神田 美千子	11 畑
38	2,121-2	89.00	酒井 徹	71原 野
39	3,143-4	87.00	森 広武夫 外1	90 墓
40	1,202-4	115.00	今宮 清五郎	90 墓
41	1,202-3	283.00	今宮 マサヒコ 外1	11 畑
42	2,123-2	992.00	橋田 稔 横見2135	51 山
43	2,123-1	119.00	橋田 稔	71原 野
44	2,122-3	13.00	矢川 ツネキチ	90 墓
45	2,123-3	37.00	橋田 稔	90 墓
46	2,122-1	240.00	橋田 稔	11 畑
47	2,122-2	80.00	藤下 利市	11 畑
48	2,122-4	44.00	藤下 利市	90 墓
49	2,123-4	78.00	橋田 稔	71原 野
50	3,152-2	72.00	稲積慎吾 外1	71原 野
51	1,201-1	248.00	稲積慎吾 外1	71原 野
52	1,200	346.00	稲積慎吾	51 山
53	2,124	912.00	農林省	51 山
54	2,125-1	98.00	農林省	51 山
55	1,200-1	375.00	稲積慎吾 外1	51 山
56	1,197	1,109.00	稲積慎吾 外1	71原 野
57	3,153-1	207.00	稲積慎吾	20宅 地
58	1,199	369.00	稲積慎吾 外1	71原 野

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
59	3,153-2	19,008.00	稻積慎吾	51山
60	1,198	628.00	稻積慎吾	71原野
61	1,196-1	160.00	稻積慎吾外1	71原野
62	1,196-2	201.00	稻積慎吾	71原野
63	1,193	687.00	稻積慎吾	71原野
64	1,189	1,820.02	稻積慎吾	20宅地
65	2,130	214.00	橋田 稔	71原野
66	2,129	256.00	橋田 稔	51山
67	2,127-2	801.00	椿 二五六 中野	51山
68	2,128	71.00	清常 清美	51山
69	2,127-1	44.00	清常与市	90墓
70	2,127	160.00	椿 二五六	51山
71	2,126-1	84.00	沖 フジシロウ	90墓
72	2,126	41.00	酒井 熊一	51山
73	3,679	2,333.00	酒井 微	51山
74	3,678	1,100.00	農林省	51山
75	3,154-3	14,123.00	農林省	51山
76	1,141	223.00	稻積慎吾外1	51山
77	1,194-1	53.00	稻積慎吾外1	71原野
78	3,672-2	29,808.00	橋田 稔	51山
79	3,677	374.00	高村 クマ	51山
80	3,676	114.00	橋田 ハルオ	51山
81	3,674	134.00	酒井トクサブロウ	51山
82	3,673	284.00	沖 敏夫外1	51山
83	3,673-3	99.00	沖 敏夫外1	90墓
84	3,673-1	25.00	沖 シヨウジロウ	90墓
85	2,147-1	356.00	酒井トクサブロウ	11畑
86	3,673-2	132.00	酒井トクサブロウ	90墓
87	3,155	4,137.00	稻積慎吾外1	51山
88	3,154-2	127.00	稻積慎吾外1	90墓

番号	地番	面積	所有者住所	氏名	現況
89	3,154-4	191.00	稻積慎吾		90 墓
90	2,147-2	81.00	酒井トクサブロウ		71原野
91	3,156	4,172.00	稻積慎吾	外1	51 山
92	2,151(の1)	71.00	神田春夫		51 山
93	3,671-1	95.00	小笠原治實		90 墓
94	3,671	1,897.00	小笠原威若		51 山
95	3,670-2	175.00	奥滝吉造		51 山
96	2,457-1	243.00	橋本治三郎		71原野
97	3,670-7	173.00	椿	カメ子	51 山
98	3,672-3	65.00	椿	二五六	51 山
99	3,670-4	33.00	椿	イワサブロウ	90 墓
100	3,672-1	339.00	農林省		山
101	2,158-1	192.00	小笠原威若	中野横見2152	51 山
102	3,158	4,956.00	稻積貞介		51 山
103	2,159	419.00	上田ツネ		51 山
104	3,669	270.00	上田ツネ		51 山
105	3,660	5,635.00	沖幸信		51 山
106	3,670-1	974.00	橋本秀明		51 山
107	2,160	172.00	藤田カメイチ		51 山
108	3,666	2,138.00	小笠原威若		51 山
109	3,667	4,414.00	吉賀徳三郎		51 山
110	3,158-1	52.00	稻積慎吾		71原野
111	3,159-1	2,182.00	石川房太郎		51 山
112	1,131-1	159.00	石川房太郎		51 山
113	3,159-2	92.00	石川房太郎		90 墓
114	3,160-2	26.00	服部司	外1	90 墓
115	3,160-4	35.00	服部寅夫	西野原	90 墓
116	1,123	51.00	服部寅夫		11 畑
117	3,160-1	3,475.00	服部寅夫		51 山
118	3,662-3	13,246.00	沖幸信		51 山

番号	地番	面積	所有者	住所	氏名	現況
119	3,662-4	45.00	沖	幸信		90 墓
120	3,661	10,798.00	沖	敏夫	外1	51 山
121	3,160-3	2,764.00	服部寅夫			51 山
122	1,124-2	126.00	服部寅夫			90 墓
123	1,124-1	257.00	服部寅夫			11 煙
124	1,121	659.00	石川房太郎			01 田
125	1,122	933.00	服部寅夫			01 田
126	3,161-2	5,873.00	石川龟市			51 山
127	3,161-1	2,956.00	石川房太郎			51 山
128	1,113	1,095.00	内藤センゾウ			71原 野
129	3,161-3	2,437.00	石川克一			51 山
130	3,162-2	5,229.00	服部次之助			51 山
131	3,162-1	3,554.00	服部寅夫			51 山
132	1,038	185.00	服部直市			51 山
133	1,038-2	333.00	内藤センゾウ			71原 野
134	3,654	1,910.00	中山団地			
135	3,657	3,570.00	兼常磐	井原1107		51 山
136	3,656	2,380.00	兼常磐	井原1107		51 山
137	3,652	11,402.00	中山団地			
138	3,660	5,635.00	沖幸信			51 山
139	2,177-2	149.00	石見町			60道 路
140	3,660-2	1,587.00	中山団地			
141	3,659-2	3,019.00	中山団地			
142	3,659-3	462.00	中山団地			
143	1,038-1	162.00	内藤センゾウ			71原 野
144	3,659-4	612.00	中山団地			
145	2,239-2	534.00	渡辺恒知			51 山
146	2,239	200.00	中山団地			
147	2,239-1	3,976.00	原野清治	横見2212		51 山
148	3,165-2	97.00	兼常磐			71原 野

番号	地番	面積	所有者住所氏名	現況
149	2,238	7,014.00	原野清治	11 番
150	3,659-1	102.00	中山団地	
151	2,227-1	3,699.00	横繁好段原1993	51 山
152	3,657	4,169.00	中山団地	
153	2,226			
154	2,226-1	255.00	沖秋太郎	01 田
155	2,245	5,159.00	沖幸信	11 番
156	2,227	3,485.00	中山団地	
157	3,658	4,404.00	中山団地	
158	2,235-1	2,367.00	椿忠大 河原城1008-3	51 山
159	2,236	847.00	中山団地	
160	3,163-1	3,723.00	服部昭	51 山
161	1,039-1	32.00	服部次之助	51 山
162	3,164	960.00	柳光芳信 井原西野原	51 山
163	3,653	5,171.00	中山団地	
164	3,165		兼常馨	
165	3,651	11,216.00	森田房雄 中野段原2011	11 番
166	3,651-1	582.00	中山団地	
167	2,228			
168	2,228-3	1,840.00	石見町	60道路
169	2,229-1	1,084.00	沖秋太郎 中野横見2225	11 番
170	2,229	259.00	中山団地	
171	2,230-1	1,625.00	沖秋太郎	51 山
172	3,635	4,076.00	沖イワ外1	51 山
173	3,636-6	53.00	渡辺カメハル	90 墓
174	3,637-4	3,860.00	中山団地	
175	3,631-1			
176	2,244	1,266.00	中山団地	
177	2,244-2	112.00	石見町土地改良区	92用悪水路
178	3,634	640.00	酒井鶴市	51 山

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
179	3,636-5	5,648.00	中山 団地	
180	3,634-1	55.00	原野 トクジ	90 墓
181	3,637-2	3,957.00	中山 団地	
182	2,244-1	4,521.00	渡辺 恒知	11 畑
183	2,243-2	2,814.00	石見町土地改良区	60道 路
184	2,243	1,820.00	中山 団地	
185	3,640	4,932.00	中山 団地	
186	3,641	9,876.00	中山 団地	
187	2,230-2	1,567.00	島根県農業開発公社	51 山
188	2,230	2,318.00	中山 団地	
189	2,233	5,073.00	椿 忠夫	11 畑
190	3,166	9,803.00	柳 光芳信	51 山
191	3,167	543.00	宮岡 清四郎	51 山
192	1,031-1	108.00	柳 光芳信	
193	1,031	1,176.00	柳 光芳信	51 山
194	道			
195	3,164-2	43.00	柳 光芳信	90 墓
196	3,171	434.00	服部 次之助	51 山
197	3,172	14,913.00	柳 光正木 井原西野原	51 山
198	1,026	273.00	服部 次之助	51 山
199	1,028	713.00	柳 光正木	51 山
200	1,023	36.00	柳 光正木	51 山
201	3,633			
202	3,632	110.00	橋田 ヒロアキ	51 山
203	3,630-12	1,335.00	熊山 晴夫 中野幸米2257	51 山
204	3,630-5	1,552.00	椿 二五六	51 山
205	3,630-6			
206	3,638-3	468.00	中山 団地	
207	3,637-3	14,919.00	中山 団地	
208	2,243-1	596.00	吉賀 利一 中野幸米2266	11 畑

番号	地番	面積	所有者住所氏名	現況
209	2,242	4,699.00	吉賀利一 中野幸米2266	51 山
210	2,241-1	4,793.00	吉賀利一 中野幸米2266	51 山
211	2,241-2	742.00	吉賀利一 中野幸米2266	11 畑
212	2,240	347.00	中山團地	
213	3,639	25,092.00	中山團地	
214	3,642	5,232.00	中山團地	
215	3,643	1,670.00	中山團地	
216	2,644			
217	2,231	4,911.00	中山團地	
218	3,650	1,516.00	中山團地	
219	3,649	1,354.00	中山團地	
220	3,648	5,437.00	中山團地	
221	2,232-1	2,991.00	石見町土地改良区	雜種地
222	3,645			
223	3,647-1	2,550.00	中山團地	
224	3,170			
225	3,177	680.00	掛川米市 西野原	51 山
226	1,008	305.00	柳光政木	51 山
227	1,006-1	97.00	野坂忠雄 井原2208	71原 野
228	4,087-3	283.00	大屋タダミ	51 山
229	4,087-4	50.00	土地改良区	60道 路
230	3,176-1	166.00	小笠原長藏	51 山
231	3,176-3	60.00	原田豊市 井原下町2223	90 墓
232	1,006-2	26.00	井上敦博 井原上町2250	71原 野
233	4,087-1	9.91	大屋セイイチ	11 畑
234	1,006-3	22.00	甘野山タカイチ	71原 野
235	4,087-2	181.00	才オヤクニオ	51 山
236	1,010	66.00	柳光政木	51 山
237	1,010-1	29.00	香川アキラ(章)	90 墓
238	3,176-2	125.00	柳光重春	51 山

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
239	3,178-2	406.00	服部 猛	51 山
240	3,178-4	28.00	掛川 弥吉	90 墓
241	3,178-3	41.00	服部 岩市	90 墓
242	3,178-1	2,743.00	掛川 米吉	51 山
243	3,179	764.00	日野山 ケンイチ	51 山
244	3,180	2,083.00	平田 豊	51 山
245	4,088			
246	1,002-1	290.00	服部 トヨサタ(豈定)	51 山
247	3,182-2	1,012.00	藤田 文九郎	山
248	3,182-3	31.00	藤田 文九郎	90 墓
249	3,181	601.00	日野山 国治	51 山
250	3,185	1,210.00	服部 猛 井原西野原	51 山
251	977-1	101.00	服部 次之助 井原西野原	11 畑
252	3,184	279.00	服部 良子 井原西野原	山
253	3,183	166.00	服部 良子 井原西野原	山
254	977	45.00	服部 次之助	11 畑
255	976-1	234.00	服部 市五郎	11 畑
256	980	389.00	三千田 正義 井原宮野原	51 山
257	976-2	54.00	服部 市五郎	90 墓
258	979-2	17.00	服部 市五郎	90 墓
259	975-1	116.00	服部 次之助	11 畑
260	975-2	21.00	服部 次之助	90 墓
261	3,186-2	14.00	兼耕作	90 墓
262	974	14.00	兼常磐	90 墓
263	3,186-1	2,292.00	兼常磐	51 山
264	3,185-1	4,215.00	鳥居 大二	51 山
265	3,187-1	503.00	鳥居 大二	51 山
266	3,187	1,994.00	前田 工(タクミ)	51 山
267	887	305.00	穂積 義富 井原下町2203	51 山
268	887-1	24.00	穂積 新三郎	90 墓

番号	地番	面積	所有者	住所	氏名	現況
269	3,188	1,152.00	鳥居 大二			51 山
270	875	24.00	鳥居 大二			90 墓
271	873	2,880.00	鳥居 大二			51 山
272	3,189	3,741.00	鳥居 大二			51 山
273	869	291.00	鳥居 大二			71 原野
274	813-1	36.00	森岡 勘太			90 墓
275	3,191-2	51.00	鳥居 黃一郎・鳥居 涼市			51 山
276	868	39.00	鳥居 大二			90 墓
277	871	152.00	鳥居 ユキ			71 原野
278	866-4	10.00	鳥居 大二			90 墓
279	866-3	311.00	鳥居 大二			71 原野
280	866-1	186.20	森岡 博			20 宅地
281	3,191-3	8,911.00	半田 充彬			51 山
282	3,136-10					
283	3,631-4	421.00	橋本文武	中野幸米2258		71 原野
284	3,631-3	74.00	橋本文武	中野幸米2258		90 墓地
285	3,631-11	30.00	吉賀 靖几	中野		90 墓地
286	3,631-9	11,069.00	熊山 晴夫			51 山
287	3,630-7	1,339.00	中山 団地			
288	3,630-9	932.00	中山 团地			
289	3,630-11	967.00	中山 团地			
290	3,629					
291	3,629-2	22.00	野田 ヨシゾウ			90 墓
292	3,631-8	709.00	野田 ヨシゾウ			11 烟
293	3,629-4	17.00	熊山 晴夫			51 山
294	3,629-3	381.00	原 重夫	中野幸米2345		51 山
295	3,628-2	1,295.00	宮田 政樹			11 烟
296	3,628-1	2,162.00	沖 マツコ			11 烟
297	3,627-1	4,185.00	沖 二信			11 烟
298	3,624-2	1,258.00	高村 クマ	中野横見2177		11 烟

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
299	3,626-1	6,378.00	栗岡 藤太郎 中野段原2050	11 番
300	3,621--3	581.00	石見町	60道路
301	3,626-2	113.00	坂根 忠利	90 墓
302	3,627-2	48.00	渡辺 ユウジ(雄治)	90 墓
303	3,627-4	91.00	渡辺 ユウジ(雄治)	51 山
304	2,281-1	65.00	渡辺 定一 中野幸米3601	42ため池
305	2,279--1	587.00	渡辺 定一 中野幸米3601	01 田
306	2,279-2	97.00	渡辺 定一 中野幸米3601	51 山
307	2,278-2	696.00	服部 悟	01 田
308	2,282-2	2,282.00	渡辺 定一	01 田
309	3,625	4,597.00	中山 地	
310	2,280	233.00	坂根 忠利	51 山
311	3,618-11	359.00	服部 ジロキチ	90 墓
312	3,619	898.00	竹林 一	51 山
313	3,618-5	12,272.00	中川 利子	51 山
314	2,295-1	337.00	吉賀 靖九	51 山
315	2,296--1	32.00	渡辺 秋義	51 山
316	3,620--1	9,696.00	坂根 忠利	山
317	3,620-3	144.00	坂根 三作	墓
318	3,204-5		渡辺 秋義 中野幸米2294	山
319	3,203-5		渡辺 秋義	山
320	3,622-7	997.00	石見町土地改良区	60道路
321	2,283	2,878.00	鳥根県農業開発コウシヤ	01 田
322	2,281	420.00	鳥根県農業開発コウシヤ	01 田
323	3,623-2	41.00	渡辺 ヨシノ	71原野
324	3,620--2	5,026.00	渡辺 誠	51 山
325	3,202-1	2,984.00	下田 早次	51 山
326	3,199-5	142.00	下田 早次	51 山
327	3,199-1	775.00	下田 早次	51 山
328	3,199-3	1,036.00	松川 讓 井原	山

番号	地番	面積	所有者	住所	氏名	現況
329	3,622-5	70.00	石見町			92用悪水路
330	2,284-2	347.00	渡辺誠			71原野
331	2,284-1	1,890.00	鳥根県農業開発コウシヤ			01田
332	2,284-3	219.00	渡辺誠			71原野
333	3,620-4	67.00	渡辺誠			11畑
334	3,621-3	581.00	石見町			60道路
335	3,622-3	4,144.00	沖幸伸			11畑
336	3,621-2	449.00	渡辺ヨシノ			42ため池
337	3,622-1	5,616.00	坂根忠利			11畑
338	3,621-4	410.00	農林省			11畑
339	3,621-5	267.00	農林省			51山
340	3,621-6	55.00	農林省			11畑
341	3,198-12	1,080.00	菅野寅一	井原片田320		51山
342	3,198-32	79.00	菅野寅一	井原片田320		51山
343	3,198-2	197.00	菅野寅一			51山
344	3,621-1	6,956.00	農林省			51山
345	3,198-35	1,185.00	渡辺生紀	井原普明寺		51山
346	3,198-34	28.00	渡辺生紀	井原普明寺		90墓
347	3,198-14	87.00	藤岡ユタ			90墓
348	3,198-36	77.00	高村梅次郎			90墓
349	3,198-13	2,743.00	高原照夫	外1		山
350	2,232-2	660.00	石見町土地改良区			92用悪水路
351	3,646-1	3,193.00	森田房雄			11畑
352	3,195	3,458.00	藤岡ユタ			51山
353	3,646-2	1,908.00	石見町			60道路
354	3,195-1	1,115.00	日高末松			51山
355	3,196-1	4,743.00	仁祐文夫			山
356	3,198-21	896.00	高村實			山
357	421	554.34	高村實			20宅地
358	420-5	111.00	高村實			20宅地

番号	地番	面積	所有者 住所 氏名	現況
359	430-2	47.00	仁柿文夫	11 畑
360	3,647-2	2,779.00	中山 団地	
361	3,191-5	5,885.00	祐未文太郎 中野町1079	51 山
362	3,194-1	1,054.00	日高數一 井原普明寺	山
363	3,195-2	100.00	日高末松	90 墓
364	3,196-2	91.00	仁柿文夫	90 墓
365	430-3	448.00	仁柿文夫	71原野
366	3,794-2	59.00	服部ヨシノリ(昌規)	90 墓
367	3,196-3	28.00	仁柿春男	90 墓
368	439-1	49.00	松島トキ	90 墓
369	435-1	149.00	仁柿文夫	71原野
370	439-2	153.00	松島トキ	71原野
371	3,192	2,010.00	森岡スエイチ(末市)	51 山
372	3,193			
373	435-2	129.00	仁柿フミオ	11 畑
374	854-1	52.00	松島誠治 井原普明寺	71原野
375	854-2	36.00	松島誠治 井原普明寺	71原野
376	3,192-1	121.00	森岡スエイチ(末市) 普明寺	11 畑
377				
378				
379				
380				
381				
382				
383				
384				
385				
386				
387				
388				

中山丘陵位置図



石見町教育委員会所蔵

